

要望書

近鉄四日市駅・JR四日市駅周辺整備事業について



令和5年7月
四日市市

平素は、四日市市の政策にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、リニア中央新幹線の東京-名古屋間が開通する「リニア時代」の幕開けに向け、2027年の完成を目指し、近鉄四日市駅からJR四日市駅にかけての中心市街地において、駅前広場の再編や両駅を結ぶ幅員70mを有する中央通りを歩行者中心の街路空間とする中央通り再編事業や都市公園の再編、まちなかのスマート化、新図書館の建設、大学の設置などからなる中心市街地再開発プロジェクトに取り組んでいます。

このような中、国土交通省におかれましては、計画の検討段階からご支援をいただくとともに、事業実施にあたっては、『都市・地域交通戦略推進事業』や『まちなかウォークブル推進事業』として採択していただくとともに、本年6月には『スマートシティ実装化支援事業(都市サービス実装タイプ)』に選定いただくなど、強力なご支援をいただいております。

こうしたご支援のもと、本年5月には『「ニワミチよっかいち」中央通り再編基本計画』を策定し、今年度からは、本市の新たなシンボルとなる円形デッキの工事や、国道1号から東



新たなシンボルとなる円形デッキの将来イメージ

側の中央通りにおいて車道を集約し歩行者空間を拡大する工事、都市公園の再編工事などに着手するなど、中央通り全線で本格的に工事を進めてまいります。あわせて、中央通りに新たに生まれる歩行者空間において、Park-PFI制度の令和6年度の事業者公募に向けてサウンディングを行うなど、公共空間の管理運営への民間活力の導入を進めてまいります。

また、中央通り再編にあわせたスマートシティの実現に向け、3D都市モデルやローカル5G環境の整備など、各種サービスの実装に向け、官民一体となって取り組んでいるところです。

この中央通りの再編に呼応して、沿道を中心にホテルやオフィス、マンションの建設といった民間投資も相次いでおり、まちなか再生に向けた機運が大きく高まっております。



ホテル・オフィスの建設(ウォークブル推進税制活用)事例

本市といたしましては、リニア時代の到来やポストコロナへの対応、まちづくりのDXなど人々のニーズが変化・多様化する中でも、市民や来街者の期待に応えられるよう、駅まち空間の再構築や居心地が良く歩きたくなる魅力的なまちなかの実現を官民一体となって推し進めてまいりますので、引き続き、次の予算の配分について特段のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

- 都市・地域交通戦略推進事業(防災・安全交付金、個別補助)
- まちなかウォークブル推進事業(社会資本整備総合交付金)
- スマートシティ実装化支援事業

令和 5年 7月

四日市市長 森 智広

